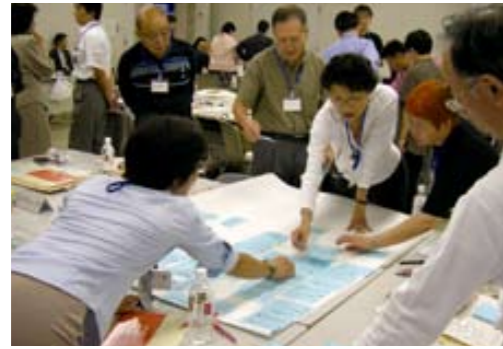
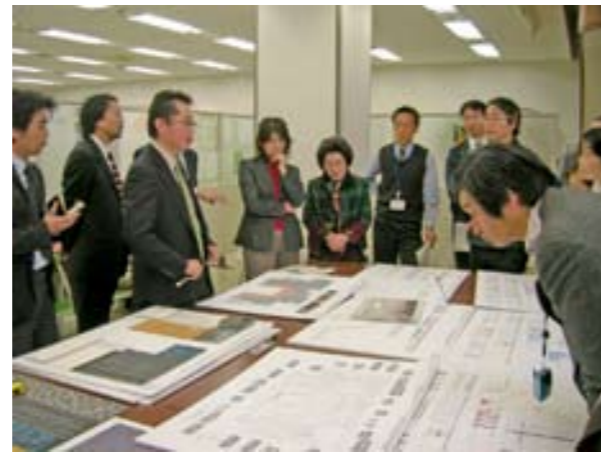


# 市民と行政が協働でつくった 市民活動サポートセンター

さいたま市市民活動サポートセンターをつくるにあたっては、市民と行政が約2年間にわたる議論と協働を重ねてきました。この本では、その経緯を詳しく記していますが、とくに広くさいたま市民またはさいたま市で市民活動をしている人などに呼びかけてつくられた市民ワークショップと、その代表者と学識経験者などが参加した整備検討委員会とが、行政と協働していった経験は、今後のさいたま市の協働の礎となっていくことが期待されています。(p.22-41,48-75)



何度も集まってワークショップ活動を行い市民活動サポートセンターへの理解を深めるとともに、協働の体制をつくりあげていった。



模型を前にして、内装計画について市民・行政・設計監理者が打ち合わせを行った。(p.55)



市民活動サポートセンターをつかっていく過程の様々な事柄は、市民活動支援室がそのホームページで公開したほか、整備検討委員会の福島委員がつくった『サポセン前夜ニュース』(06年10月4日付の「第4回ワークショップ全体報告」から、07年10月の正式オープンまで、計7回発行)で逐次、市民・関係者に情報を提供した。左の号は、上の写真の設計監理者説明会の様子を知らせるもの(p.55)。

# いろんな機能が集まっている コムナーレ

浦和駅東口駅前再開発ビル内の8~10階には、市民活動サポートセンターの他に、中央図書館(8階)、国際交流センター・浦和消費生活センター(いずれも9階)、浦和コミュニティセンター(10階と9階の一部)が設けられています。これらの施設がある公共施設部分の愛称が「コムナーレ」で、さいたま市の市民の様々な活動の拠点となっています。



## コムナーレ Comunale

「Comunale」とは、イタリア語で「市立の」を意味する言葉で、市民から応募された愛称から絞り込まれた5案を、市民投票を経て決定された。現在、その知名度を高める努力が行われている。(p.79)

コムナーレのある浦和駅東口駅前再開発ビル(正式名称ストリームビル)の夜景。画面左の大きな窓上部にはコムナーレのマークが見える。



各種発表会、音楽練習、講演・会議などが行えるスペースが多く用意されている10階の浦和コミュニティセンター。



消費生活に関する問い合わせや相談を受け、必要な情報提供等を行う浦和消費生活センター。市民活動サポートセンターと同じ9階にある。



図書25万冊、CD1万枚の蔵書数を誇る、8階の中央図書館。



市民活動サポートセンターと同じ9階にある、国際化の推進や在住外国人と市民の交流の場として、また国際関連団体の活動拠点としてつくられた国際交流センター。